

第8回 教育再生懇談会 議事要旨

日 時：平成21年3月12日（木）8:30～10:00

場 所：総理官邸大会議室

出席者：麻生内閣総理大臣、河村官房長官、塩谷文部科学大臣、松本官房副長官、漆間官房副長官、松野文部科学副大臣、有識者14名、他

（安西座長）

ただいまから第8回教育再生懇談会を開催する。委員の皆様方におかれては、御多忙のところ御出席を賜り、誠にありがとうございます。

本日から新たに6名の方々に委員にお加わりいただき、引き続き、新たな課題について、検討してまいりたいと思う。

○安西座長より、委員の紹介

（安西座長）

それでは、麻生総理より御挨拶をいただきたいと思う。

（麻生内閣総理大臣）

早朝より御出席いただき、また、新たに委員を引き受けていただき誠にありがとうございました。今後ともよろしくお願い申し上げます。教育再生懇談会が一段と充実した体制で再びスタートできることをありがたく思っている。

この資源のない国においては特に人づくりというのが国づくりの基本だと思っている。この教育再生懇談会において取り上げていただきたい問題をいくつかしぼって申し上げます。

これだけ国際化していくと、国際社会に通用する人物が求められる。「読み書き・そろばん」と良く言うが、今なら「読み書き・計算・英会話」というところも大事になる。

また、経済状況が非常に厳しい中で、教育を受けられる機会が必要。そういう機会の均等、公立学校の質の向上、保護者から親の方から見た信頼される学校、教育委員会の在り方なども御検討いただければと思っている。

もう1点は、小林委員、また朝原委員に委員として入っていただいているが、次の時代というのを考えると、科学の未来には大きなものを我々は期待をするところがある。また、オリンピック見るまでもなくやっぱり国民に感動を与え

るという状況はスポーツが大きな要素を占めている。知育・徳育・体育、昔から言われるとおりである。

したがって、スポーツ庁といった色々な発想が委員の中でも言われているところでもあるが国民誰もがスポーツに親しめる体制などについて御議論いただければと思っている。

先日も若月委員のおかげで、品川区の小学校を視察した。授業を見ても、我々の小学校の時と全く違った環境になっており参考になった。現場で熱心に取り組んでいる先生方を、大変興味深く見学させていただいた。

国民の期待に応えられる、そして世界から期待される日本人をつくっていくのが教育であるので、是非、皆様方の御提言、色々な御意見を、よろしくお願い申し上げたいと思う。

(安西座長)

新委員の皆様から、一言ずつ御発言をいただきたいと思う。

(朝原委員)

大阪ガス株式会社の朝原と申します。昨年北京オリンピックで銅メダルを獲得した。この度委員という大役を仰せつかり身の引き締まる思いである。昨年の北京のリレーの決勝前のような心境である。しっかり私の役割を果たせるようにがんばっていきたい。教育に関しては門外漢であり、学生時代から陸上競技に打ち込んできた。海外に留学してトレーニングをして国際舞台も数多く積んできた中で、スポーツが持っている力を教育に何とか生かせたら、我が国の若者や子供達の夢の実現に役立つかと思う。国の教育に少しでもお役に立てたらと思っている。微力だがよろしくお願いする。

(安藤委員)

日清食品ホールディングス株式会社の社長・CEOを務めている安藤と申します。私も教育とは距離があるラーメン屋でインスタントラーメンを作っている。創業者がつくったインスタントラーメンが51年目を迎えており、24年間社長を務めている。

青少年の心身育成について安藤スポーツ・食文化振興財団という財団でかかわっている。最近、特に力を入れているのが自然体験関係である。今、指導者が足りない、10万人ぐらい指導者が必要だという話を聞いており、プロの先生方をどのようにするかというのを財団のテーマとして一生懸命やっている。自然体験の中で、小学生の頃から道徳、正義感、使命感を育成でき

ればと思っており、一つ一つ進めている。

財団ではスポーツにも取り組んでいる。小学生陸上を毎年各地区で行っており、16万人超の生徒達が小学生陸上を通過している。

食品も世界に広がっており、国際性のある社員を育成しなくてはならない中で、先程の総理の話にあった海外に通用するような素養をどのように育成していくのかというのが大きなテーマである。門外漢で、素人であるが、よろしく願います。

(井口委員)

井口と申します。改めてよろしく願います。三井住友海上火災に40年余り務めており、自動車保険とか火災保険などの損害保険の分野をやってきた。

私どもは20年程前に当時まだマイナーなスポーツであった女子柔道と女子駅伝・マラソンを会社のスポーツとして力を入れていくことにした。以降ずっと力を注いできた。監督は、スポーツ人の前に良き社会人たれということをもットーにして選手を育ててきている。高校時代余り有名ではない選手を探し、こつこつ育ててきた。そのおかげで女子柔道の分野では上野雅恵ら上野3姉妹、駅伝・マラソンの分野では土佐礼子、渋井陽子などが育ってきた。

20年余りにわたりスポーツを通じて、社会に対して一定の貢献をしてきたので、そこで得た考え方、経験をスポーツの分野でお役に立てればと思う。教育は受けたことはあるが、教育をする側に立ってものを考えたことはない。なので不安はあるが、一生懸命務めさせていただくのでよろしく願います。

(小林委員)

私も教育の現場のことをあまり知らない。研究所勤めが長かったので、大学の実情すら疎いもので、実情を無視したことを申し上げるかもしれないが、科学や学術に関係したことで、重要だと思うことを1つだけ申し上げる。

研究の先端は目覚ましい勢いで進んでおり、膨大に知識が増加しているが、教育の中にそういうものをどう取り入れていくかということが一番重要ではないか。従来の内容をそのままにして新しい知識を付け加えるというのでは破たんするのは明らかであるが現実にはそれに近いことが起きているのではないか。いかにそういう新しい知を内容的に取り入れていくかという問題を解く必要があるのではないかという気がしている。

(前田委員)

宮崎県綾町の前田と申します。よろしく願います。もう町長に就任して20年目を迎えるが長く地方行政を担当させていただいている。私は麻生総理の

ファンであり、こんな機会をいただいたことを光栄に存じる。浅学菲才で我が身も省みず大役を仰せつかり光栄と同時に責任の重大さを痛切に感じる。

総理のおっしゃっているように、国づくりは人づくりだと思っている。私も地域づくり、町づくりは、人づくりだと感じている。若者が定住できる教育・文化の町をつくりあげたい。幼児教育・保育から義務教育である公立小中学校の教育の向上をしっかりと確立していかないと、教育の分野が不十分であるとなかなか若者が定住できない。もう1つは郷土に対する愛着、自分の町に誇りを持てるような町づくりが大事ではないかと考えている。

人材をどうやってつくり上げていくかということを考える時、家庭に人材ありということで、家庭教育が大事である。それについて学校教育と社会教育と結び付けを強化していかなくてはいけない。地域ぐるみで人材を育てる必要がある。

地方は体験学習を初めとする色々な自然教材があり、私の町も世界に冠たる照葉樹林が保存、継承されている。誇りある地域資源を掘り起こしながら郷土愛が芽生えるような町づくりを進めていきたい。

更にスポーツを通じて国際交流をつくりあげていきたい。スポーツ合宿を展開している。一流の設備を整備して一流の人材を招いて一流の人材が輩出できるよう、青少年に夢と希望を抱かせる取り組みが大事である。

今そんなことに取り組みながら、若者が定住できる町をとということで、教育行政の一角をつかさどっているところである。よろしく願います。

(安西座長)

総理は、ここで御退室される。ありがとうございました。

それでは、河村官房長官から御挨拶をいただきたいと思う。

(河村官房長官)

新しいメンバーの方をお迎えし、この教育再生懇談会の再出発、本格的なスタートをすることができて喜んでいる。私も文部科学大臣経験者でもあり、塩谷大臣ともども、この教育再生懇談会を日本の教育の大きな柱にしたいと思っている。

文部科学省には中央教育審議会があり、このメンバーの皆様には両方掛け持っている方もおられるが、そことは違ったもっと広い視野でこの教育再生懇談会は取り組んでいただくということである。

新メンバーの皆様の自己紹介等もお聞きしながら、皆様謙そんして教育は門外漢とおっしゃるが、皆様のおっしゃったこと、また皆様の存在そのものが教育だと思っており、麻生内閣が目指している方向と皆様の思いはやはり一致していると大変心強く思った次第である。

総理が言われるように、正に人をつくっていくことが国をつくっていくこと、この基本で日本の国が今日まである。世界から見れば、日本という資源のない東洋の島国が世界有数の国になったのはやはり教育だと、みんなそう思っている。やはり日本の教育は崩れる訳にはいかない使命を担っていると感じている。丁度転換期に来ている教育を大事にするということが非常に重要だと思っており、麻生総理の思いともども、この教育再生懇談会がその役割を果たしていただきたいと願っている。

教育も変えてはならないもの、日本の歴史、伝統、しっかり守っていかなければならないものと大きく変えなければいけないものがある。絶えず不易流行ということを考えながら取り組んでいかなければいけないと思っており、是非そういう位置付けにも立ち、皆様の貴重な話をいただきながら、取りまとめていただきたいと思う。

皆様が一体となって、社会総ぐるみで日本の教育をつくっていこう、正に日本の力が教育に問われていると、こういう思いで私も取り組んで行きたいと思っている。どうぞよろしく願います。

(安西座長)

続きまして、塩谷文部科学大臣から御挨拶をいただきたいと思います。

(塩谷文部科学大臣)

この度新たに委員として加わった皆様方とこの懇談会がスタートすることで、私も河村官房長官と同じように麻生内閣での新しい教育再生懇談会がスタートするという思いである。是非皆様方それぞれのお立場で忌たない御意見をいただきながら、将来の我が国の教育について御尽力賜ればありがたいと思っている。

約60年ぶりに改正された教育基本法の下で、教育三法の改正、教育振興基本計画の策定、更には学習指導要領を改訂し、今年から新しい内容でスタートする。新学習指導要領は、小学校では平成23年度、中学校では平成24年度から全面実施され、高校では平成25年度から年次進行で実施されるが、小・中学校については今年から先行実施が始まる。また一方で教員の免許更新制も今年から始まる。そういう意味では今年新しい日本の教育が始まる年であり、いかにその内容を実行に移すかということが今私の一番の使命である。

教育基本法の理念で、道徳心、あるいは公共の精神、そして日本の伝統文化、更には郷土、国を愛するというようなことも明示され、具体的に学習指導要領に盛り込んでいる。いかに実行するかにおいて、私自身としては、生きる基本というものをしっかりと、同時に世界トップレベルの学力をどうするかということで、幼稚園から大学に至るまでの一つの学校体系をもう一度見直す。また、同時に教育費の問題も大変大きな課題となっているので、この点も含めてこのテーマに沿って皆様方の御支援をいただきたいと思います。

特に基礎的なところをもう一度押さえていく、これは日本の良さをもう一度見直してそれを大事にしようということが私の基本である。そういう中で道徳心とか、あるいは基礎学力、更には体力、それから職業観、勤労観を基本にとらえて、「心を育む」ための5つの提案もしている。当たり前のようなことだが、それが今行われていないということが教育の質に大きくかかわっていると思っている。そういう基本を踏まえた上で、全体的な教育を構築していく必要があると思っている。

社会が多様化された中で、教育もいろんな要素を持って、多岐多様な分野において行われているので、特にこの教育再生懇談会については、文部科学省だけではなかなか解決できないことについて、幅広く御意見を伺って、安西座長のもとで日本の将来を、教育について方向性を示していただければありがたいと思っているので、何卒改めて皆様方によりしくお願い申し上げます。

(安西座長)

それでは、議題に入る。今後の検討テーマについて、事務局より資料の説明をお願いします。

○事務局より、資料2「教育再生懇談会における今後の検討テーマ（案）」について説明

(安藤委員)

今のテーマに、小学生の心身育成のための自然体験活動もどこかに盛り込んでいただきたい。もう一つ食育もあるが、農水管轄でやるべきなのか、この懇談会で議論していいのか。

(安西座長)

今後の検討テーマ全般にわたって、どういう方向で議論していくかなども含めて、御自由に御意見をいただいきたいと思う。

今日は色々意見をいただいて、事務局も含めてまとめさせていただきたい。

食育については教育再生会議でもあったテーマでフォローアップという意味でもこの懇談会で取り組むと思う。

(池田委員)

フォローアップについて申し上げますと、教育再生会議で様々な提言をし、チェックリストも出している。継続という点からもフォローアップ体制を強化していただく必要があると思う。ワーキンググループというかたちが適切なかどうか分からないが、フォローアップをテーマにした、我々も参画できる組織をつくっていただけないか。

特に制度が改正されたり、予算付けされたものが、教育現場に落とし込まれているかどうか確認していく必要がある。例えば放課後子どもプランなど予算付けされても地方自治体の中で現場に落とし込まれていない例をいくつか見ている。現場に落とし込まれている姿をもう少しチェックし、フォローしていきたい。

(田村委員)

フォローアップの充実をもう少しお願いしたい。「教育安心社会」の中で、若者の総合支援に係わる法律が国会に提出される。これは教育再生会議の議論を受けて、内閣官房に検討会を設け、そこでの熱心な議論の上で良いものができた。欧米では既につくられて実行されている小さい子供から青年を社会として総合的に見ていく仕組みをつくる。日本の社会は良い仕組みを持っているが、不十分なところは縦割りになっているところである。調べたら13ぐらいの省庁がそれぞれやっており、横の連絡がほとんどできていない。この部分をもう一回取り上げて、フォローアップの内容の確認という意味で議論していただくことが大事である。

(若月委員)

今後、スケジュールとしては、月何回ぐらいのペースで検討していくのか。塩谷大臣が挨拶の中で、学校体系の見直しについて述べていたが、それを考えた時、本区のみならず地方の色々な自治体で、義務教育学校の質の向上、信頼の回復ということで、小と中を一つのくくりとして子供の成長、学力の育ちを見ていこうという動きが広がっている。「教育安心社会」の公立学校の再生の中に、今の6・3制と併せて、義務教育学校をひとくくりにした学校教育体系の見直しも入れていただければありがたいと思う。

(吉田室長)

4月から5月にかけて4つのテーマを一通り議論したい。具体的には、4月に2回開催し、1回につき2つのテーマを検討し、4月中に4つのテーマを一度検討したいと考えている。その結果を見ながらまた5月以降に議論を続けていきたいと考えている。

(安西座長)

ある程度のスピードを持ってということなので御協力をお願い申し上げます。今日は意見をいただいて、それをまとめさせていただきたい。

(小川委員)

フォローアップは、教育再生懇談会の設置の経緯からして引き継ぐべき課題である。教育振興基本計画の点検、次年度に向けたプログラムづくりが文部科学省の中央教育審議会が始まっているが、その中で色々な課題が出てきた場合には、教育振興基本計画は内閣で決めたものであるので、内閣が責任を持ってフォローアップし、必要に応じて、支援、手直しもしなくてはいけない。教育振興基本計画も含めたフォローアップを、ワーキンググループとまでは言わないが、何らかの形できちんとできるような体制をつくっていった方が良いのではないか。

(木場委員)

スポーツがもたらす人格形成など、スポーツというものはすばらしいものを持っている。学校現場において気になるのが部活動の充実である。小さいうちからスポーツに触れる機会をつくるのが良いが、読売新聞に載っていたが都内の公立中学校で指導者不足により200ぐらいの部活が休廃部になるとのことであった。指導者不足に関して東京都で近々人材バンクのようなものをつくると聞いている。

また部活ではなく教育に関してだが、会社を退職した方が、こういう分野なら教えられると、ばらばらに講師として登録している例もあるが、どこかで一元化して、分かりやすく、学校に派遣する形をとった方が良いと思う。

指導者に関しては、たとえば、プロ野球選手を辞めた方などは、厳しいルールがあり高校や中学に指導者として入ってはいけないと聞く。高度な技術や指導力を持っている人材を生かせないのはもったいないので、そのあたりの緩和も考えながら部活動の充実に力を入れて考えていただきたい。

(井口委員)

日本の社会でまん延しているのは、自分さえ良ければ良いという考えだと思う。会社にはコーポレート・ソーシャル・レスポンシビリティという考えがあり、社会に対する貢献、責任をどう果たしていくかということを考え、実行している。本業でいかにお客様に利益・利便を提供するかということに加え、環境、文化、スポーツ等に対する責任を果たすということをやっている。

この考え方を個人に適応するという考え方はどうか。このように言うと倫理や道徳教育に受け取られがちだが、個人の社会的責任という観点から人を育てる、そういう観点から教育をどうしていったらいいのかという議論に進めていただければ良いのではないかと思う。

(菅原委員)

「教育安心社会」について、弱い立場にいる子供達のことを含めた御提案をいただき本当にありがたく思っている。

教員養成の在り方、任用前研修の在り方について検討していただきたい。初任者が大学で教員養成について勉強してきたことと現場のニーズが余り合っていないような気がする。規範意識の低下、生活指導上の問題など、集団の質が変化しており、4月に初任者として現場に立ったときに、学級経営力と授業力がゼロからスタートということでは、教員を続けていくというのが困難という先生方が増えている。今求められているのは、人間関係形成能力、指導技術、特別支援教育に関する知識、スキルである。そういったものも含めた教員養成の在り方、任用前研修を考えていただきたい。東京都でもこれから10年間で教員の半分が入れ替わると聞いている。

事務、学校行事、保護者対応という負担が増えており、学力向上のために教科指導に専念するためには、事務の負担軽減、専科制の推進など是非お願いしたい。

(安西座長)

教員の負担の話と、部活の顧問の成り手がなかなかいないというのは共通した根っこがあるような気がする。いただいている御意見の中で色々と共通した課題があるかと思う。

(朝原委員)

トップアスリートとして、日本代表の強化スタッフとしてサポートに回っているが、子供達の基礎体力が低下しているのが大きな問題だと思っている。10年前と比べ、歩く距離も少なくなっていると思う。外で遊ぶ機会が少なくなってきた。子供はどこかで発散しないといけないというのが持論だが、体を疲れさせないと夜すっきり眠れないという問題がある。

夜更かしすると朝起きられず、朝御飯を食べないという悪循環となる。朝御飯を食べないというのは親の問題もあり、親御さんに対しても食育の問題というのが大事である。基礎的な生活態度を改めることにより、授業に身が入って、やる気のある子供達が沢山増えるのではないかという気がしている。

安藤委員から自然体験の話が出たが、キッズ登山というイベントを企画している。自然に触れ合って足腰を鍛えるのもあるが、頂上に誰でも登れ、達成感を味わえるということも教育の大きな要素になるのではないかと考えている。

(安西座長)

以前から議論してきた携帯電話の問題も今のことにかかわるのではないかと思う。

(篠原委員)

携帯電話について、是非各委員に協力いただきたい。必要ない限り持たせない、必要な場合には機能限定の機種にするという流れだが、機能限定の携帯電話について各社から発売されているが、通話機能しかついていないという姿にはなっていない。ロックをかける方式になっている。親が暗証番号を持っていて、子供にせがまれたらフル機能にできるという機種である。私らが考えていたものとはかなり開きがある。しかも暗証番号を事業者で預かって親に渡さないという方式で販売してくれるのかと思えば、親に渡してしまっている。こういうことで、皆さん子供に甘いのでどこまで実効性が上がるのかなという状況である。

近くワーキンググループか何かで大手3社にもう一度ヒアリングをして、今どういう状況で売れ行きはどうか、こういう形でもう少し踏み込めないかというお願いも含めてやろうかと思っている。どうも機能限定という言葉だけが踊りつつある。もう少し踏み込めないのか。事業者に聞くと、マーケットで売れないと言う。場合によっては、事業者に対する財政的な支援とか、何か方策を考えていく必要があるのかもしれない。

理化学研究所の津本先生は、通信機器が子供の脳の発達にいかに関与するかという分析をしているものがある。

新しいテーマの中に読み書き・そろばん・英会話というのがあるが、国語力と英語力をどう両立させていくかだ、小学校低学年は日本語中心を徹底し、それから段々同時並行に入っていく。この辺をめりはりを持たせてやらないといけない。教育再生懇談会の第一次報告にある小学校3年から英語というのは早いのではないかという気が今でも残っている。

教育再生会議のフォローアップについては、ワーキンググループつくるのも一つの方法ではあるが、この会議で半日ぐらいかけて徹底的に洗ったかどうか。

(安西座長)

子供の携帯を実際に見てみた。篠原委員のおっしゃるとおり親が暗証番号を握っているというスタイルになってきた。

理化学研究所の研究については、対面のコミュニケーションと携帯を使うのでは、脳の使い方が違うというデータだと理解している。

(前田委員)

公立保育所を運営しているが、幼児保育、幼児教育の分野は、人間形成をする面で第一歩の親としての責任、社会としての責任を感じている。三つ子の魂百までという言葉が生きているぐらい大事な分野で、もう少し踏み込んで欲しい思いがある。

男女共同参画社会の中で、親が子供にかかわる時間が短くなっている。女性が色々な分野で活躍されているのはありがたいことだが、保育サービスの強化が年々求められている。朝早くから夜遅くまで、充実すればする程、親と子の交わる時間は短くなっていく。子供の保育、教育が公任せ、保育所任せ、幼稚園任せとなり、果たして本当にこれでいいのか、やはり親が子供の目線で子供の養育、保育、教育をしっかりする、正に家庭教育というのはそこがスタートではないかと痛切に感じる。

めりはりをつけて選択と集中で予算配分を思い切ってやったが、親が子供と向き合う時間を長く持ってもらいたいということで、経済的な面での援助をしようということで第2子以降の保育料等の無料化を打ち出した。非常に大事な分野で、できたら完全無料化によって、できるだけ子供と接する時間を多く取ってもらいたい。親が子供にかかわる時間を多く持つことが大事であり、議論を深めていただけるとありがたい。

(赤田委員)

教育基本法も変わり、家庭教育の在り方が問われている。家庭教育が低下しているというのはいつの時代も言われており、単に公的な支援があれば充実するというのではなく、企業の社会責任がある。保護者が授業参観もできない状況にある。家庭の保護者が子供に向き合う時間がない。社会全体で、企業も含めた形で検討していかないと難しい。なぜ家庭教育が低下して、上がっていないのか、原因を具体的に議論していただければありがたい。

(若月委員)

資料2の考え方で、テーマの1から4は、教育再生会議のフォローアップそのものになってくるのではないかと。それと「5 教育再生会議のフォローアップ」の関係はどういう整理になるのか。

(吉田室長)

1から4までのテーマは総理からの御指示もあり、こういった形でこの懇談会で御検討いただくわけであるが、教育再生会議や教育再生懇談会で関連する提言を行っているので、これまでの提言がどのような形で実施されているのかという現状を認識していただいた上で、更に何が必要かという議論の

進め方をさせていただくことになるかと思う。そういった意味では、フォローアップをこの全体の会合の中で同時に行っていたきながら、新しい課題などについても議論していただくという進め方になるかと思う。

（安西座長）

その辺りを整理していただくが、今おっしゃったとおりで、教育再生会議で既に議論されていたことは多々あり、それと重なる面、そこからシャープに切り出している面も随分あると思う。

（池田委員）

フォローアップ体制を強化していただくと同時に、総理から御指摘いただいた今日的な課題を、重複してもクローズアップし、議論いただくのが大切ではないかと思う。

（小林委員）

テーマの3のところ「国際的に通用する若手人材等の育成」とあるが、非常に問題は複雑である。例えば最近の若い人は海外に行きたがらない。海外に出るより日本でポスドクを続けていた方が有利だという判断だが、背景は複雑で、その方が成果が上がる、短期的な成果を求められる傾向にあるのでそれを重視する、ポスドクの数を増やしたので国内のポスドクのチャンスが増えているなど色々な問題が複雑に絡んでいる。

そういう中で「国際研鑽機会の充実」という政策があるが、日本からサポートされて外国に出ると、外国のポストを自らの力で取ってくるのと、どちらが人材育成のためにプラスになるかという問題も別の問題として出てくる。そういう複雑な背景がある問題なので、どういう方向性がだせるか、私自身が判断しかねているというのが感想である。

（安藤委員）

自然体験教育の問題は教育再生会議の中でディスカッションされており、フォローアップの中で見ていこうという理解でよろしいか。

（安西座長）

事務局とも相談して整理させていただく。教育再生会議で相当部分網羅されており、それを見ながらやはりここで議論を深めていこうというテーマを切り出してくる必要がある。その中に自然体験をきちっと入れてくるべきだということであれば、その御意見を尊重させていただく。

(安藤委員)

自然体験は、理科につながるし、食育にもつながっており、幅広いものであると思う。このようなマクロのディスカッションは終わったのでミクロのディスカッションをするということなのか。

(安西座長)

大事だということはどなたも異論はないと思う。どういう形で具体的に提言をしていくかということだと思うので、それは整理させていただく。

河村官房長官から一言いただきたい。

(河村官房長官)

熱心な御意見をいただいたことを感謝する。フォローアップの話が出ていたが、これまで色々議論されたこともこの中に入っているだろうと思う。

国民の目線が教育にどうのことを期待しているか、そういう視点にも立たなければいけないし、国がやるべきことはどういうことで、国民サイドにはどういふ協力を仰がなくてはいけないのか、という点にも視点を置いていただく必要があると思う。

科学技術の振興等が日本の国を支えているから、これに政府がどういうふうに向かえばいいのか。景気が悪くなったりすると、どうしても文化、スポーツ、企業メセナ、企業の社会貢献、その視点が弱くなる。そういうものをしっかり鼓舞しながら、メッセージを発していかななくてはいけない。

大局的な視点に立ったこの教育再生懇談会からの発信というものを期待している。日本のこれからが懸かっている教育の問題であるので、貴重な時間をいただくとするが、御協力を重ねてお願い申し上げる。

(安西座長)

塩谷文部科学大臣から一言いただきたい。

(塩谷文部科学大臣)

先程来お話しがあったフォローアップの件は、教育再生会議から教育再生懇談会と、かなりのテーマを議論していただいたので、そこを整理する必要がある。特に池田委員から現場でどの程度実行しているかという話があったが、私も疑問に思うところであり、そういった点も含めてフォローアップをどういふふうにやっていくか、小川委員がおっしゃった教育振興基本計画も併せて、連携していければと思う。その点を事務局の方で整理して方向性を出していきたい。

それぞれ色々貴重な御意見をいただいたが、私は社会全体で何が大事か、それを国民に発信することが大事だと思っている。自然体験は私も大賛成である。制度については完璧ではないにしてもだいたいできていると思う。後はいかに体験させるかということである。今一番子供達に足りないのが、意欲とかチャレンジ精神とか好奇心とかであり、それらは体験から生まれるものである。コミュニケーションもそうである。教育の根幹はそういうところかと思っているので、いかに時間を取ってそういう機会を得るかということがスタートである。

先生方というのはかつては聖職者と言われた。誰からも尊敬される指導者が必要だというような基本的なところを押さえていく必要があると思っているので、各テーマの中でそういったことを反映して議論していただければありがたいと思う。

今日の御意見をまとめて、この教育再生懇談会としての方向性を示していただきたいと思うので、今後ともよろしく願います。

(安西座長)

ありがとうございました。本日お出しいただいた御意見を踏まえ、今後の検討テーマについて整理をさせていただきたいと思う。

本日の議事は以上となる。今後の日程などについて事務局から願います。

(吉田室長)

本日の委員の皆様からの御意見等を踏まえ、座長とも相談させていただきながら、検討テーマについて整理をさせていただいた上で、次回からはテーマを特定して検討をお願いしたいと考えている。

(安西座長)

それでは、本日の教育再生懇談会は閉会とさせていただく。皆様お忙しいところ、ありがとうございました。